

青い窓



**お月さま**  
一年 ながみね にこ  
七十三ぶん  
お月さまをみました  
かぜがつよくて  
くちのかたちをしたくもが  
お月さまをたべるように  
かきました  
お月さまのなかには  
うさぎのおかのみえました  
とつてもおおきくて  
まんまるお月さまでした

**お月さまのなかのうさぎさん**  
一年 よなみね あいか  
うさぎがさみしそうで  
あいかはかわいそうと  
おもったよ  
だからおもちも  
おいしかったのかな  
ふしぎだね  
ひとり  
おもちつきをしたのに  
ほんとうにおもちは  
おいしかったのかな

**雨がふったら**  
二年 石原 せいり  
雨がふったら  
ピッチャンコ  
ルンルン花もよころんだ  
ソロソロソロソ  
かたつむり  
雨がふったら  
ポロソロンソ  
かえるも  
スイスイ  
およいでる

●今回は城岳小学校のお友達です。

編集後記

平成二十五年十二月の広報紙を発行いたします。各委員の活発な活動をお届けしたく委員一同がんばりました。快く記事や写真をお寄せいただいた皆さまに心より感謝申し上げます。  
青い窓を飾ってくださいました城岳小学校のよい、皆さま、本村律子校長先生、ご指導くださった担任の先生方、ご協力誠にありがとうございました。  
広報委員長 翁長孝枝 山内勝美 与儀啓子

活動報告

**女性支援活動知って**  
国際ソロプチミスト沖縄の喜舎場直子会長  
女性と女性の生活向上を目指す国際ソロプチミスト沖縄の喜舎場直子会長  
写真前列中央から23日、就任あいさつのため那覇市天久の琉球新報社を訪れた。同団体は若い女性リーダーの育成をしている。6月に「ガールズカンファレンス沖縄大会」を開催し、県内の高校生26人がそれぞれ意見を発表した。参加生徒のうち那覇国際高校2年の宮城和香菜さんを8月に福岡県で開かれる九州地域の大会へ派遣する。  
ほかにも家庭に困難を抱えながら資格を取るなど努力する女性の支援などを行っている。喜舎場会長は「活動をぜひ広く知らせたい」と述べた。

▲H25年7月29日 琉球新報「ひとくらし」面

女性の社会貢献を支援  
ソロプチミスト喜舎場新会長

国際ソロプチミスト沖縄の喜舎場直子会長  
写真右から3人目から新役員が23日、沖縄タイムス社を訪れた。任期は1日から1年間。「女性が力をつけるよう支援していく。活動に終わりはない」と意欲を語った。  
他の役員は宮里暁子副会長＝同5人目、宮里洋子会計＝同1人目、事務局の山内勝美さん＝

同2人目と赤嶺静子さん＝同4人目、翁長孝枝広報委員長。今年も、女性を応援する「女性に機会を与える賞」や社会貢献活動を予定している。



▲H25年7月26日 沖縄タイムス「情報」面

芭蕉布の今と昔展

～沖縄の心を紡ぐ技の世界～



金城幸子 (会員)

去る盛夏の候、金城幸子会員の企画展がタイムスホールで、開催されました。訪れた参加者は感動体験をしました。金城会員は展示会の実行委員長として、芭蕉布の伝統と技術の継承のために力強い努力を傾注しています。



SOROPTIMIST  
Best for Women

\*ロゴマークがかわりました。女性と女児をサポートする団体のイメージを表しています。

■発行  
2013年12月  
■発行所  
国際ソロプチミスト沖縄  
〒900-0015  
那覇市久茂地2-10-20-301号  
TEL (098) 869-9871  
FAX (098) 943-0349  
ホームページ  
http://www.soroptimist-okinawa.org/  
■発行責任者  
喜舎場 直子

国際ソロプチミストは(私たちは)、管理職、専門職に就いている女性の世界的組織で、人権と女性の地位を高める奉仕活動を行っています。世界125の国と地域に3,000以上のクラブがあり、約9万人の会員が女性のために変化をもたらす奉仕活動を行っています。

会長あいさつ

慈愛にあふれる  
集団でありたい!



国際ソロプチミスト沖縄  
会長 喜舎場 直子

2013年度会長をお引き受けいたしました。国際ソロプチミストは117ヶ国に3,103のクラブを持つ世界的組織です。日本には現在520クラブ、80,901名の会員を有しています。

私たちの活動は女性と女児の生活の向上と女性が社会的、経済的に自立し、各々の夢を実現できるように支援することを使命としています。

今、一番力を入れているのは、WOA「女性に機会を与える賞」への取組みです。配偶者の病気や離婚などで、子育てをしつつ家計を担っている女性が、キャリアアップを目指して、資格を取得するための物心両面の支援をするものです。

会長としての目標は「みんな協力しあって仕事をする」ことです。笑いのたえない、笑顔が湧き出る運営を心がけたいと思います。

私たちは、人様のお役に立つことをさせてもらっている者として、謙虚に、人格を磨かねばと考えています。そして「慈しみあふれる集団でありたい!」私の強い願いです。

日本財団平成25年年次贈呈式

11月12日(火)、花と食の政令指定都市、新潟市の朱鷺メッセにて第34回年次贈呈式が開催され、全国から299クラブ2,078名のソロプチミストが一堂に会し、支援・奨励・顕彰・援助の4つの事業を通じて各賞の顕彰や援助先の贈呈が行われました。

公益認定を得て2年目の今年度より、女性研究者賞に杉山清佳氏、ドリーム賞に向井千秋氏が加わり、日本を代表する名だたる人材ばかりで、「目に見えないものを見ようとする力

(心)が大切」「夢や希望、目標があると驚くほどの力が湧いている」など受賞者の皆さまのメッセージに参加者一同感激し、グローバルな財団賞の意義をあらためて実感した次第です。また、SI石垣の推薦で、八重山ダイビング協会が援助金贈呈先に選ばれたことも嬉しいニュースでした。

会員一人ひとりが社会を良くするための活動を大きく支援していることが実感され、誇らしく思う年次贈呈式でした。

新城 伸子 会員



## SOLT研修 ホスピスに思うこと



石川美智子会員

ホスピスとは、病む人が死という人間にとって最大の試練に立ち向かう時、その人とその家族を全人格の立場から助け、よりよく生きることを援助すると共に死から命への転換を与えるところであり、痛で死に行く人々に対する包括的、かつ全人格的ケアの概念です。

ホスピスでは援助者の技術よりも、むしろ全人格的要素が重要となってきます。ホスピスにおける中心的働きは痛みの除去であり、①身体的痛み、②精神的痛み、③社会的痛み、④霊的痛み、これら4つの痛みを総合的に取り除くことを目的として、医師、看護師、カウンセラー、牧師などがチームで取組みます。私はチームの一員として1984年よりこの仕事に携わり、患者さんに接する中で一番大切で必要なことは、どれだけその方と同じ立場で悩み、苦しみ、不安を受け止められるか、どれだけ関心をもって愛せるかだと思います。

## ミニ講話 知っていますかトマトの話



普天間初子会員

完熟して真っ赤なトマトほど、人体の活性酸素を除去し、生活習慣病を予防する色素、リコピンが多く含まれています。「カゴメ953」(1995年開発)には、通常のリコピンが成分表示されています。常備食として、トマトホール缶詰、瓶詰、トマトピューレ、ケチャップ等大いに活用し、栄養効果を高めましょう。

トマトケチャップを40g~50gかけると緑黄色野菜を150g食べたことになります。リコピンは加熱しても分解されないで、油類と同時に摂ると吸収率が良くなります。

## ガールズカンファレンス



マイクを手にする宮城和香菜さん

福岡市で開催されたガールズカンファレンス大会で沖縄代表の宮城和香菜さん(那覇国際高校)が大活躍しました。2日間にわたる会議で、「女性と女兒の教育とリーダーシップ ~私たちが描く未来へ~」のテーマの下に各地区の参加高校生が熱心な討議を繰り広げました。

会長 喜舎場直子

# 第38回認証記念日

国際ソロプチミスト沖縄クラブが誕生したのは1975年、復帰3年後のことでした。

初代翁長君代会長の下にスタートし、毎年10月25日が認証記念日として会の誕生を祝うことになっています。現在喜舎場会長と共に38名の会員数で、奉仕活動も精を出しています。

認証記念日のプログラムは、大学生への奨学金贈呈、スポンサーをつとめる尚学高校のSクラブと沖縄キリスト教短期大学シグマソサイエティへの助成金贈呈など、毎年恒例の集会がゲストをお迎えして楽しく行われました。

今年度の奨学生は沖縄女子短期大学から選ばれた伊禮ありささん(2年生)と漢那有香さん(1年生)。

伊禮さんは「奨学金は保育園や児童館等への出前活動に活かしたい」。漢那さんは「沖縄観光を学生の目線からみてホスピタリティの面で、更なるオリジナリティを目指したい」と喜びを語りました。今年度はソロプチミスト日本財団に当クラブが推薦した映画「ていーだかんかん」の主人公、金城浩二さんにクラブ賞が贈られました。金城さんはサンゴの海の再生に懸命に取り組んでいる方です。

懇親会は玉城節子会員の祝いの舞「かぎやで風」、Sクラブの皆さんによるハンドベルの演奏など楽しく和やかに認証記念日の夕べを過ごしました。



「海の種」の金城御夫妻と喜舎場会長



尚学高校のSクラブと沖縄キリスト教短期大学Σソサイエティ会員活動助成金



ピースサインの参加者たち



沖縄女子短大元山和仁学生支援部長



奨学金授与の沖縄女子短大伊禮ありささんと漢那有香さん



Sクラブの皆さんによる美しいハンドベルの音色



球陽会員をお迎えして



創立の思い出を語る花城貞江会員



カンパイ! 城間緑会員



司会の宮里美恵会員と崎原末子会員

## アメラジアンスクールへ助成金を贈呈



お喜びのセイヤーみどり校長と会長

9月19日(木)、健康診断助成金の贈呈を行いました。セイヤーみどり校長から「おかげさまで毎年、子どもたちの健康づくりに役立ててることができまます」とお礼のことがばがありました。

第44回「博報賞」アメラジアンスクールが受賞 このたび、アメラジアンスクール・イン・オキナワが「博報賞」国際文化理解教育部門、文部科学大臣奨励賞を受賞しました。アメラジアンの子どもたちに対する英語と日本語による「ダブルの教育」の提供が高く評価されたのです。毎年助成しているスクールの受賞は本会としても、とても喜ばしいことです。

## 新潟中越地震の際のバナナと黒砂糖ありがとう



長岡クラブの元会長の青木千衣子さま、石井夏枝さまが晩餐会会場で2004年10月23日の震災の際のお礼に来られ、感動の出会いをいたしました。お土産に銘菓をたくさんいただきました。

## WOA推進地区別研修会



市ヶ谷洋子ガバナー

「2013年女性に機会を与える賞(WOA)クラブ参加100%に向けて」の研修会が、市ヶ谷洋子リジョンガバナーを迎え、SI沖縄とSI球陽が参加して開催されました。研修の内容は女性と女兒が、持っている才能を花開かせ、自分の夢を生かされるよう、資源と機会を得ることができるようWOAの対象となる女性を各クラブが発掘するために取り組むことを促すためのものです。沖縄はWOAの意識が高いので候補者の人選をがんばってくださいとガバナーから励ましを受けました。



ガバナーを囲み笑顔の会員

## 赤い羽根共同募金



10月19日(土)恒例の赤い羽根共同募金活動を三越前で行った。沿道の人々への博愛の声かけがさわやかだった。



ご協力の高校生とハイポーズ

## DV被害者自立支援のための樫の木基金収支報告

(平成25年4月1日~平成25年9月30日)

取り崩すことができない基金1,002,641円(定期預金)

収入		支出	
前期より繰越	1,865,546円	支援7件	400,000円
今期募金	2,424円	振込手数料	315円
返済金	151,000円		
(平成25年4号は完済)			
銀行利息	142円		
合計	2,019,112円	合計	400,315円

差引残高 1,618,797円 平成25年度後期へ繰越

募金にご協力くださった方々に感謝申し上げます。

平成25・26年度の事務担当者  
委員長 渡名喜よし子・副委員長 新城洋子・会計係 中村澄子